

2017年度参加バナー一覧

4月	四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀ガイナース戦
5月	四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀ガイナース戦
6月	人権保育連絡協議会、四国ブロック隣保館女性職員研修会 四国学院大学マイノリティ・ウィークフリーマーケット、隣保館女性職員研修会
7月	人権女性部総会、丸亀市二軒茶屋総合センター夏祭り 丸亀市金山文化センター夏祭り
8月	琴平町象郷会館夏祭り、人権保育連絡協議会夏季研修会、天満天神社夏祭り、まるがめ婆娑羅まつり 四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀ガイナース戦
9月	四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀ガイナース戦 ふくしフェスティバルまるがめ、文化交流祭
10月	四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀ガイナース戦、ふれあい城坤まつり 香川県就学前人権教育研究集会、城西まつり
11月	琴平隣保館文化祭、丸亀市二軒茶屋総合センター人権フェスタ、丸亀市金山文化センター文化祭 部落解放同盟第35回香川県講演会
12月	香川県じんけんフェスタ2017、第5回まるがめ子育てフェスタ&にこにこひろば

委託先紹介

たかさね珈琲倶楽部 中華料理の醬醬 ガルテンハウス赤いはりねずみ
香川労災病院売店 丸亀市役所売店 寿美屋、三菱電機受配電システム内売店
カフェテラスSakura Gamelan 喫茶みどりや 季間屋 トップモードオカダ
デイサービスセンター「一の風」 Good Neighbors Coffee 正岡 ハヤ
ホテルアネシス瀬戸大橋 沖縄食堂ていーだかんかん

販売の予定

第5回うたづえもんいちにてクッキー、雑貨の販売
○日時 2018年2月11日(日)～2月14日(水)4日間
10:00～15:00
○場所 宇多津町こめっせ宇多津(町役場横)

・焼き芋の注文販売、配達承ります。
小 150円～
・駄菓子袋詰め、クッキーのラッピングも随時行っています。お店にお越しいただくか、電話にてご相談下さい。

編集後記

今回、リニューアルしましたたんぽぽの機関誌『Life』ですが、これまでの報告等の記事から変更し、読んで下さる皆様に、よいたんぽぽのことを理解していただけるように、たんぽぽの理念、活動内容等の意義について私たち職員が再度振り返り記載しています。今後の機関誌においても見る人全てが実りある機関誌にできればと考えています。今回は上記内容となり、地域生活支援、就労支援を軸にたんぽぽが何を大切に活動しているのかを、皆さんと共有したいと考えます。



NPO法人SAJA-サヤ たんぽぽ

で検索してください。

facebook



ホームページは
tanpopo-saja.com
で検索してください。

Life

第63号 2018. 1. 19発行
特定非営利活動法人SAJA(サヤ)
就労継続支援B型事業所 たんぽぽ
〒763-0066
丸亀市天満町1-2-31
TEL:0877-22-2840
HP tanpopo-saja.com

挨拶

新年を迎えて、時代の対局を見る



明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願いします。さて、日本社会では1947年～1949年生まれの方を「団塊の世代」と呼称しています。現在、団塊の世代の方は約650万人いて、7年後の2025年にはその年齢が75歳以上(後期高齢者)となります。厚生労働省によると、全国の75歳以上の高齢者は、2025年までに2,179万人になるという推計(2010年は1,419万人)です。認知症高齢者についても470万人(2010年は280万人)となり、ひとり暮らし高齢世帯も701万世帯(2010年は498万世帯)と一気に増加すると予想されています。2025年以降、わが国はこれまでの高齢化社会到来の速度の問題に加えて、高齢者の数の多さと「看取り」の問題に取り組まざるを得なくなるということです。これがいわゆる「2025年問題」と言われている内容です。

このように、超高齢化時代はすぐそこまで迫ってきています。市町村によっては高齢化率が40%近くに達するでしょう。同時に生産人口(15歳以上65歳未満の人口層)は少子化の影響で激減の一途を辿り、都市への人口過密と農村部の過疎化がさらに進むとされます。つまり、働き手が少なく(税収減)、被支援者が多くなるということです。その結果、自治行政が維持できなくなった市町村の消滅が危惧されます。都市部において問題となるのが「老老世帯介護」「孤独死」等です。数十万人が待機している特別養護老人ホームへの入居は到底叶わず、かといって年金しか収入がなければ本当に必要なサービスを自前で購入することもできません。加えて夫婦のいずれかが高齢のために動けなくなると事態はさらに深刻です。一方、農村部においては核家族化によって過疎地域に高齢世帯が残された結果、老化に伴って生活必需品の買い出しに行けない「買い物難民」や、親を介護するために、子が遠い都会から定期的に帰省するという「遠距離介護」等の問題が生じます。いずれの場合も、高齢者の地域における自立した生活を維持するためには、経済的、物理的、あるいは精神・身体的に限界があり、民間資本で経営される低処遇の高齢者共同住居への入居や子どもが退職して親の介護をするというリスクを伴う支援の道しか残されていないかもしれません。

こうした事態に対応するには、介護ヘルパーのみならず、自宅に訪問診療する「訪問医」や訪問看護師を増やすと同時に、グループホームやデイサービス等の地域に密着した介護サービスを充実(例えば、看護と介護の連携や医療と福祉の協働等)させていく必要がありますが、最早新事業の整備や制度新設だけでは不十分であることは明らかです。これらに対して国は「包括ケアシステムの構築」や「わが事まるごと共生社会」等のスローガンを掲げて、先述の今後起こり得るであろう事態を乗り切ろうと画策しています。

手作り雑貨

主任 小西靖代



動物アクリルたわし



もじあそび



レジンの雑貨

事業所では、製造、販売と大きくふたつの活動を日々行っています。6年前、新たな活動として委託内職作業を廃止し、自主製品の製造販売を中心とする活動へと転換しました。そのひとつとして雑貨づくりがあります。雑貨づくりを始めるにあたっては、何を誰のために作るかということ話し合い、「子供と大人が楽しめるもの」とコンセプトが決まりました。最初は、手芸に興味はあるけれど縫物が苦手というメンバーもいましたが、得意なメンバーに教わりながら、上靴入れ、手提げバック、遊び着等、入園入学準備用品やフェルトのおもちゃを主につくり始めました。みんなが手探りの状態で始めた雑貨づくりも、ミーティングをしていくうちに、メンバーから「〇〇を作りたい」「できるかどうか分からないが〇〇を練習してみたい」「試しに作ってみた」など徐々に意見が上がってくるようになりました。バザーなどでお客さんに買ってもらえるようになり、メンバーも「自分の作った雑貨が売れると、とても嬉しい気持ちになる」と話していました。今一番売れているのが「毛糸のどうぶつタワシ」であり、どのバザーに行っても完売する人気商品です。編み物を得意とするメンバーが、ひとりで作っていましたが、他のメンバーが「できるかどうか分からないがやってみようか」と声を掛けていました。事業所では2016年度より活動コンセプトを掲げています。(1)新しいことを恐れずチャレンジする(2)自分ではできると信じる(3)楽しく働くの3つのコンセプトを基盤に、メンバーが得意なことを活かしながら新しいことにチャレンジできる機会を提供しています。今後も、メンバーと一緒に考え、悩み、独自の発想を活かした新しい作品作りができるように、少しずつ進んで行きたいと思っています。

駄菓子屋たんぽぽ

職業指導員 奥原茜

駄菓子屋は2010年4月にオープンし、早7年が経とうとしています。当時、駄菓子屋の開店を決定したミーティングにて、人と人の繋がりは日々繰り返され、自然な環境の中で福祉教育や啓発活動、また障がいを持つ人々も一住民としての役割を担う機会や就労の場となるようなお店にしたいと話合ったことを思い出します。

店舗営業、販売のノウハウを持たない私たちは、どのようにしてお店を成り立たせるのか、1からのスタートであり、その1つひとつの課題を当時のメンバーの皆さんと話し合ってきました。7年が経過する間、良いことも悪いこともたくさんありましたが、その都度みんなで検討し共有し合うことを大切に行ってきました。そのような日々を積み重ね、現在の駄菓子屋たんぽぽがあるのだと思います。

駄菓子屋の一日は、朝の開店作業（店舗の掃除、品出し、金銭の管理等）、接客、夕方閉店作業（精算等）の他、お菓子の発注や注文があった際には袋詰めも行っています。今では、定期的に注文を下せる企業ができ、また駄菓子屋として、様々なイベントに参加させていただくこともあります。このような機会を通して、イベントを一緒に盛り上げる、また地域の活性化にたんぽぽも貢献できていることが、とても嬉しく思います。先述したように、人と人の繋がりは日々繰り返され、自然な環境の中で福祉教育や啓発活動を行うことができるツールとして、利は少ないですが駄菓子屋たんぽぽでありたいと考えます。また、たんぽぽと地域、メンバーとお客さんとの確かな「つながり」を感じ行っています。

つながることの大切さ、地域ぐるみ、町ぐるみを目指して、今後も駄菓子屋たんぽぽの営業を行っていきたいと思います。お菓子を通して、メンバーとお客さんとのコミュニケーションの機会や、子どもたちの仲間づくりの場になることや、“人と人の繋がり”を直接肌で感じることでできる温かい場所となることを願います。余談ですが・・・子供の頃を思い出すような懐かしい空間です。子どもはもちろん、大人も楽しめるお菓子が揃っています。お近くに来られた際にはぜひお立ち寄り下さい。

<開店時間>
10:00~17:00



店舗内



袋詰めの様子



イベントにて駄菓子屋の開店

その他

これまで紹介してきた作業の他、英字新聞にて販売で使用する袋を日常的に作成しています。販売準備、委託先への配達準備等の合間に作っており、一人一人得意な工程の部分を担当しています。

また月4回の球場掃除においては、最低賃金の保障という観点から、掃除への意識を高く持ち、働くということ等、参加メンバーにてミーティングを行いました。そして季節野菜の加工品として（茄子の辛子麴漬け、黒豆ボン菓子）焼き芋の販売、廃油洗剤の販売を行っています。



球場掃除の様子



英字新聞にて販売袋の作成



納涼会の様子